

～「基地と観光の島」で
チャモロ人のアイデンティティを学ぶ～

グアムの歴史・基地・文化をめぐる

先住民との交流の旅

旅行期間 **2023年**

6月28日(水)～7月2日(日) 5日間

旅行代金 **255,000円(成田発着)**

定員

25名様 (最低実施人員12名)

締切

2023年5月26日(金)

※旅行代金の他に、燃油付加運賃と海外空港税・成田空港施設使用料・保安料・
出国税が(29,060円)別途かかります。発券時のレートにより決まります。差額
が生じる場合には追加集金または返金いたします。

※関西空港・中部国際空港・福岡空港発着
もご案内できます。ご料金お問合せ下さい

添乗員 **成田空港から同行します**

中村みずきさん同行・通訳

英語通訳、ライター。元米海兵隊員の故
アレン・ネルソンさんの講演、原水爆禁
止世界大会などで通訳を務める。アジア
太平洋地域の軍事化と、それに抵抗する
住民の国際ネットワーク作りに関心を持
ち、執筆・講演等の活動を行っている。

旅のPoint

- 地元の方のご案内で、観光ブックでは知れない
グアムの歴史を学びます。
- 米軍基地の拡張の実態を学び、リテクザンの森
とビーチを散策します。
- 先住民チャモロの文化や料理を楽しみ、地元
の方と交流します。

※写真はすべてイメージです

Peace Green Humanity

旅行企画・実施

(株) 富士国際旅行社

観光庁長官登録旅行業第84号・JATA正会員

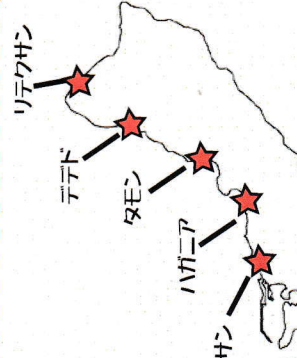
月日	都市	現地時間	交通機関	旅程・宿泊地・食事
① 6月28日 (水)	成田空港発 グアム着 ホテル着	午前 夕方	航空便 専用車	空路にてグアムへ(成田空港集合午前9時頃予定) (所要時間: 約3時間40分) 着後、専用車でホテルへ * チャモロビレッジ・ナイトマーケット 夕食: 参加者交流会 グアム泊 X 機 D
② 6月29日 (木)	グアム	午前 午後	専用車	<テーマ: グアムの歴史を学ぶ> * ラッツェストーン公園 * ハガニア歴史地区 * グアムミュージアム * T.Stell Newman Visitor Center (アジア・太平洋戦争についての映像や資料を展示) * アササン展望台 グアム泊 B L X
③ 6月30日 (金)	グアム	午前 午後	専用車	<テーマ: グアムの米軍基地について学ぶ> * 海兵隊基地キャンプ・ブラス * 実弾射撃訓練の建設地に隣接するリテクザンを訪問 * 地元の方と交流(「リテクザンを守れ」市民団体と交流予定) * マネガン収容所跡 グアム泊 B L X
④ 7月1日 (土)	グアム	午前 午後	専用車	<テーマ: グアムの文化を体験する> * Nihiスタジオ(子どもたちにチャモロの言葉と文化を継承するための教育プログラムを制作) * チャモロカルチャーセンター・地元の方と交流 夕食: 参加者交流会 グアム泊 B L D
⑤ 7月2日 (日)	グアム発 成田空港着	午前 午後	航空便	出発まで自由行動(オプショナルツアーをご用意してます) 空路、東京・成田空港へ (成田空港到着20:00~21:00頃予定) おつかれさまでした。 B X 機

● 旅程表のマーク: B=朝食、L=昼食、D=夕食、X=自由食、機=機内食
● 予定航空会社: ユナイテッド航空、など
● 宿泊予定ホテル: ホリテイルリゾートグアム&スバ 又は同等クラス
※ 視察訪問先は現地の都合により訪問順序・日時が入り替わる場合がございます。

グアムの基本情報

- 【正式名】グアム(アメリカ合衆国の未編入領土)
- 【人口】16万2742人(2016年)
- 【言語】公用語は英語とチャモロ語。タモなど一部エリアでは日本語が通じる
- 【時差】日本より1時間進んでいる
- 【通貨】米ドル
- 【電圧】110~120ボルト、60Hz、プラグは日本と同じAタイプ

【気候】年間最高気温は約32℃、最低気温は約21℃



グアム料理

グアムの伝統的な郷土料理といえる「チャモロ料理」。スペイン・アメリカ・日本・その他東南アジアから影響を受けています。頻繁に使われる食材はココナツ、赤唐辛子やお醤油・お酢・玉ねぎ・シモ甘「砂糖」などの料理でも「甘い」「酸っぱい」「辛い」のいずれかが濃厚に表現されています。それでも食べやすい味付けのものも多く子供達でも安心して楽しむことができます。

1日目 いざグアムへ 同ホテルに4連泊!

旅のpoint 1

じっくりゆっくりと、グアムの自然と文化を体験することができます。同じホテルで連泊のため、荷物の移動もありません。

◆チャモロビレッジ・ナイトマーケット

ハガニアにある「チャモロビレッジ」で毎週水曜日の夜に開催されているマーケット。チャモロ料理の屋敷やお土産店が立ち並び、ローカルバンドの生演奏やダンスを楽しむことができます。観光客だけでなく、地元住民も多く集まる場となっています。

▲チャモロ・ビレッジ ©グアム政府観光局

2日目 グアムの歴史を学ぶ

旅のpoint 2

約4,000年前にカヌーで太平洋を渡りグアムにやって来たと言われるチャモロ人。グアムは17世紀からスペインに植民地支配された後、1898年に米国の領土に。1941年12月、日本がグアムを攻撃し、2年7か月間に「大宮島(おおみやしま)」として占領。その後再び米国の領土となり、現在に至ります。米国の「非編入領土」とされるグアムの市民は、大統領選挙への投票権がないなど、権利が大きく制限されています。グアムの先住民であるチャモロの人々は、脱植民地化と自己決定権を求め、1970年代から活動してきました。街の随所に残された史跡や戦跡、博物館等を見学しながら、帝国の領土争いに翻弄されたグアムの歴史を学びます。

◆T.Stell Newman Visitor Center

米連邦政府の国立公園局が運営する博物館。グアムにおける太平洋戦争の資料が展示されています。太平洋戦争国立歴史公園のあるアサンは、アササン展望台からはアメリカ海軍の軍港があるアブラ港やアサンビーチが見渡せます。

▲アサン展望台から見下ろすアブラ港

3日目 グアムの米軍基地について

島の30%近くが米軍基地とされており、大規模な基地拡張が進んでいます。軍事化が島の環境や人々にもたらした課題を学びます。

◆海兵隊基地キャンプ・ブラス

2020年に発足した新たな基地。沖から移転する米海兵隊員約5,000人が駐留する予定。基地建設に伴い規模な森林伐採が行われ、チャモロの古代の村跡や埋葬地が破壊されました。

◆リテクザン

自然保護区に指定されているリテクザン(英語ではリテイティアン)は、アンターセン空軍基地の北西に建設予定の実弾射撃訓練場に隣接しています。この射撃場の建設費は日本政府が提供しています。リテクザンはチャモロ人が最も早く定住した地域のひとつとされ、貴重な文化遺産が残されています。また手つむりの自然が残っています。蝶、かたつむり、こもりなごなどの固有種・絶滅危惧種を含む動植物が生息しています。

4日目 グアムの文化を体験する

◆チャモロカルチャーセンター Sagan Kotturan Char...

※写真はすべてイメージ。伝統ダンスはない場合がございます。